

2010年6月18日
株式会社デジタル・ナレッジ
「学習者の視点でeラーニングを考える会」実行委員会

「第4回 学習者の視点でeラーニングを考える会」報告書

◆総括

2009年9月から始まった「学習者の視点でeラーニングを考える会」も、ご参加者様のご協力により、2010年4月16日に4回目を開催することができました。

前回（第3回）は、「今のeラーニングに足りないものとは？～様々な学習方法の向き、不向き～」をテーマに挙げ、教科書や映像教材など、学ぶものや状況によって、向き・不向きがあるのではないかと考えました。学習者は「なにを」「どのようなときに」「その学習方法を」選ぶのかを洗い出してみることで、eラーニングの認知度、存在意義、学習メリット等の、決して芳しくない実状を知ることができました。

eラーニングを広く知ってもらうためには、どうすればよいのか？どうすれば学習者はeラーニングを学習方法として選択するのか？どんなeラーニングだったら学習する価値があるのか？これらを考えることで、この先eラーニングが発展し続けるのではないかと我々は考えました。

そこで、第4回は、「学習の価値」についてディスカッションを行いました。

学習を行う際には、ある一定の時間と努力が必要になると思います。学習する内容により、拘束される時間の長さや、努力の度合いは異なりますが、授業に参加する・反復的に物事を覚える・効果の測定を行うなど、学習を行うためには時間と努力は欠かせないものです。

しかし、学習を行った人は、それらを費やしただけの「見返り」を手にすることができると思うのです。我々は、その「見返り」とは何なのか？いったいそれにどんな「価値」があるのか？また、どんな「価値」があれば、人は学習を行うのか？ということ、第4回のテーマにいたしました。

この「学習者の視点でeラーニングを考える会」は、学習者にとってのより良い学習環境とはどのようなものかを、お集まり頂いた皆様と共に考え意見交換することで、いろいろな気づきを得たり、漠然と考えていることを整理したりできる場です。私たちや皆様の学習に関する問題点や取組みが、この会を通じて少しでも改善し、より良い学習への礎となるよう、努めてまいりたいと思います。

◆◆コンセプト説明◆◆

私たちの目的は“eラーニングが、先生や管理者の利便性だけでなく、学習者にとっても効果的でメリットのある学習方法だと認識されるようにすること”です。詳細は「第1回 学習者の視点でeラーニングを考える会報告書」のセクション1をご参照いただければと思います。

過去の「考える会」では、eラーニングにこだわらない形で「学習」「教育」全般の“学習者の視点”を考えてみたり、あらゆる学習方法の中でのeラーニングの位置づけを認識したりしてまいりました。そして今回は、総括で述べたとおり、“学習の価値”について考えてみました。

◆◆ディスカッション①◆◆ 「学びの前・中・後にある価値」

◆ディスカッション①-1◆

— 学ぶ前にある価値

何かを学び始めるとき、きっかけとともに、自分自身の意思決定があります。では、どんな期待・どんな価値があると思って学び始めるのでしょうか。

◆ディスカッション①-2◆

— 学ぶ過程にある価値

学び始めてから結果や目標に行き着くまでに、どんな価値があるのでしょうか。学ぶ前に期待していた価値と比較してみてください。

◆ディスカッション①-3◆

— 学んだ結果にある価値

学び終わったときに、どんな価値があるのでしょうか。学ぶ前に期待していた価値や、学ぶ過程で感じる価値と比較してみてください。

◆ディスカッション①の結果・内容◆

参加者がそれぞれ、自身の体験や業務の中で感じたことを発表し、ディスカッションしました。

対象	学ぶ前	過程	結果
英会話	旅先で話せるようになりたい	外国人講師との交流の楽しさ・感動	楽しさ・感動があった ちょっとした英会話力
英会話	無料体験 将来の自分のイメージ	先生とのコミュニケーション	英語は話せるようにならなかったが、異文化コミュニケーションに価値があった
クイズ	競争に勝ちたい	苦手なことに良い結果が出るのが楽しい	—
着付け	なんとなく	先生や友達とのコミュニケーション できるようになる喜び	友達との付き合い、人の役に立てる
船舶免許	生活の幅を広げたい	講師とのコミュニケーションにより教材以外の知識を得られた	お金を出して投資したことで挫折せず続けられた
デザインの勉強	将来に向けて	先生とのコミュニケーション	視野・可能性が広がった
生物	気付いたら学んでいた	ひたすら楽しんでいる。 「学んでいる」という意識はない	一見マニアックな世界と思うが、入ってみるとマニアックではない
コンピュータの勉強	知らないという不安があった	不安があるから学ぶ、学び続ける	—
心理学の勉強	不安だったからか？強制力か？	参加者とのディスカッションをすることで皆と仲良くなった	目的が飲み会になったが、コミュニケーションが取れた
高専、専門学校(情報系)	—	つまらない あまり知識が広がらない	学んだ内容ではなく、先生や友達とのつながりが価値
専門学校(美容系)	—	朝起きれない生徒を先生が電話で起こすのが、お互いに重荷だった	生徒の生活が変わる、人間性の向上、社会人になってからの習慣
予備校(学生)	受験に向けての勉強	—	努力することを学んだ、努力できる自分を知った、精神的なバランスを学んだ、
資格・教養(社会人)	資格を取りたい	—	「こんなに早く」資格が取れるとは思わなかった

◆ディスカッション①のまとめ◆

「学び」そのものよりも、「学び以外」のほうに価値があったと認識することが多いようです。「学び以外」とは、人との出会いやコミュニケーションであることが多く、それらは“学んだ結果”の価値として私たちの記憶に残ります。また、「努力の大切さを知った」「自分が変わった」など、自己の発見・発展なども、“学んだ結果”の価値となります。学んだあとに「やって良かった」と思えたのであれば、学ぶ前に描いていた価値とは違っていても、それは私たちにとっては意義ある経験となるのです。また、「学び」そのものの価値は、学んでいる間は分からなくても、学び終わって数年経ってからその価値が分かることがあるというご意見がありました。

一方で、楽しみながら学ぶことは「学び」を意識していないので、「気付いたら学んでいた」ということがあるというご意見、さらに、やらなければいけないという状況では特に、不安があるから学ぶのであり、不安がないと学ぶ意欲もなくなってしまうのではないかと、というご意見もありました。

また、学生が対象の予備校などでは、“学ぶ前”と“過程”の価値はほとんど変わらないが、“学んだ結果”の価値は、それまでの価値とは違うものであることがよくあることに対し、社会人が対象の資格取得講座などでは、明確な目標そのものに価値があるためか、“学ぶ前”と“学んだ結果”の価値がほとんど変わらないという、教育現場の方ならではのご意見もありました。

◆◆ディスカッション②◆◆ 「どんなeラーニングがあったらいいと思いますか？」

ディスカッション①を踏まえて、どんなeラーニングがあったら、価値あるものとして認識されるようになるのか、現実的・非現実的にこだわることなく意見を出し合ってみました。

◆ディスカッション②の結果・内容◆

- 目的意識が明確になるように導いてあげられるもの
- よりアナログのものの方が、コミュニケーションの広がりがあるのではないか
- 満足度を上げるコンテンツではなく、目的意識を持たせるための施策
- 個に対するケアが重要
- その人が何を学びたいのかを聞いてあげる
- 学ぶ過程で得られるものがあってこそ継続できる
- 学習履歴を活用し、それを心理学とつなげて性格検査をする
- チームを作って対抗させるなど、孤独感を与えないもの
- ライバル発見機能

自分のレベルに近い人をライバルにして競争する。ギリギリ勝てそうなレベルの人を探す。
ダイエットのWebサービスではこのようなものがある。

- 例：ジュエルペット／ジュエルランド）※株式会社セガトイズの商品・サービス

リアルなものが手元にあるうえで、教室をバーチャルの世界でやるのは面白い

- 例：Wii フィット）※任天堂株式会社のフィットネス用ソフトウェア

1人だと目的が見えなくなりがちなので、自分にあった支援があると成果が出るのでは。

- 例：カーナビ)

スタートからゴールまでのルートをいくつか提示してくれる。つまづきやすいポイント等も示されているし、リルート（経路再検索）もしてくれる。

一方で、このような課題も出ました。

【課題】

- ◆ eラーニングを使うためのハードルが始めからある。これをどう解消し、提供していくか。
- ◆ リアルの世界にある臨機応変さがデジタルでも必要なのではないか。
- ◆ ネット上のコミュニケーションは無機質なので、それを解消したい。

◆ディスカッション②のまとめ◆

概念的なことから機能的なことまで、実にさまざまな意見や発想が出てきました。どれも「なるほど」と思え、また「あったら面白い」と思えるものでした。参考にするべきものが世の中にはたくさん存在しているのだと思います。

◆◆デジタル・ナレッジの考察◆◆

私たちは「学習」において、「学習内容」そのものが「価値」あるものでなければいけないと思ってしまう傾向があるのではないのでしょうか。これをやればきっとよくなる、将来が変わる。それらは決して間違っていないと思います。しかし、私たちの心が感じる「価値」とは、学習内容そのものではなく、その学習をとりまく状況であったり、自分の気持ちであったりすることが非常に多いのだということが、今回のディスカッションを通して実感することができました。

本来やろうとしていたことは挫折してしまったとしても、それをやることに何か「価値」があって、やって良かったと後からでも思えるものがあれば、それもひとつの結果・成果であり、「学習の価値」となるのだと思います。

前回の考える会までに、eラーニングに不足している要素をディスカッションしてまいりましたが、多少の不足があっても、このような「学習の価値」があれば、eラーニングは多くの人が必然的に使うものになるのではないのでしょうか。

「eラーニングだから実現できる価値」「やりたいと思えるeラーニング」これらを提供することが、私たちが目指しているところであり、それを目指すことは間違っていないと改めて感じました。ディスカッション②で出たようないろいろなアイデアが、いつか現実のものとなり、「eラーニングで学習したい」「学習の場としてeラーニングは最適である」と多くの人に思ってもらえるよう、そのためにまたディスカッションを通していろいろな方のご意見をお伺いしたいと思っています。

以上